

教学比較IRコモンズでは、2015年からコモンズ参加大学において共通のスマート・ウェブ・サーベイを用いた学修行動比較調査を実施しています。その結果は参加各大学において個別に詳細な分析がおこなわれると共に、参加大学内で適宜有用性を判断しつつ比較分析が施されています。ここでは調査実施母体である教学比較IRコモンズとして、個別大学に抛らず、回答した全学生を総計した結果の一端について公開します。現に学んでいる学生たちの自らの学修に関する生の反応の集約結果をご覧ください。

今回は3年目の調査で参加大学は12大学、1万1千名を超える大学生が寄せた回答結果から、またいくつもの発見と確認ができました。なお、その他の結果や情報についてはコモンズのwebページ URL: <http://cmpir.org> をご覧ください。

この枠内と右に示した結果は2017年に実施したALCS調査全体のデータ諸元です。

実査期間（全体） 2017年10月11日 ～18年2月9日

調査実施方法 ALCS独自のスマート・ウェブ・サーベイ

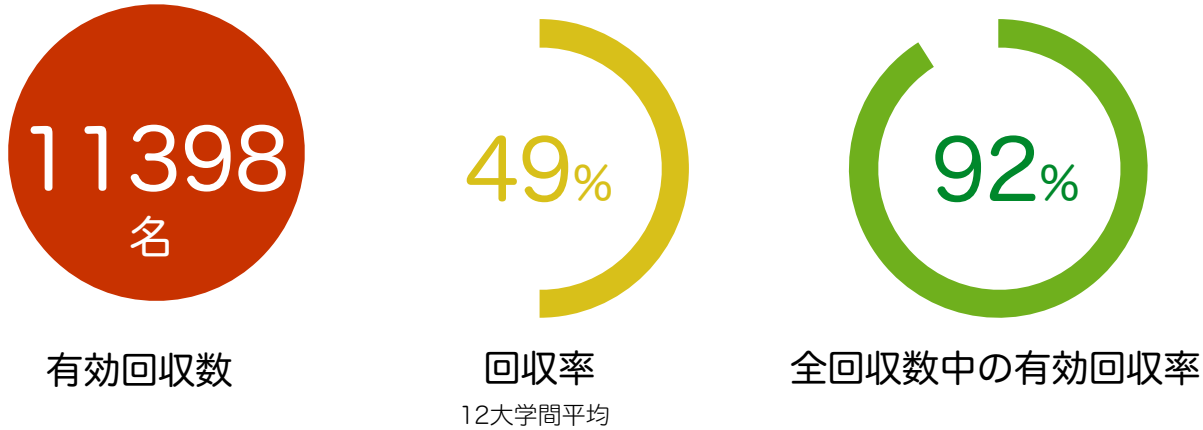
調査大学数 12

回収数 12405

有効回収とは設問本体80問について回答率が60%以上であった回答

回答者学年構成 1年生57% 3年生43% 1、3年生間での比率

性別構成 男性41% 女性59%



この調査は1、3年生を調査対象にすることを基本にしていますが、大学によって別の学年での実施も可能としています。

- 参加大学（名称の50音順）
- 岡山大学

お茶の水女子大学

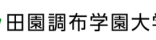
嘉悦大学

川崎医科大学

高知大学

津田塾大学

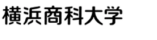
帝京大学

田園調布学園大学

東京女子大学

国立大学法人 奈良女子大学

日本女子大学

横浜商科大学

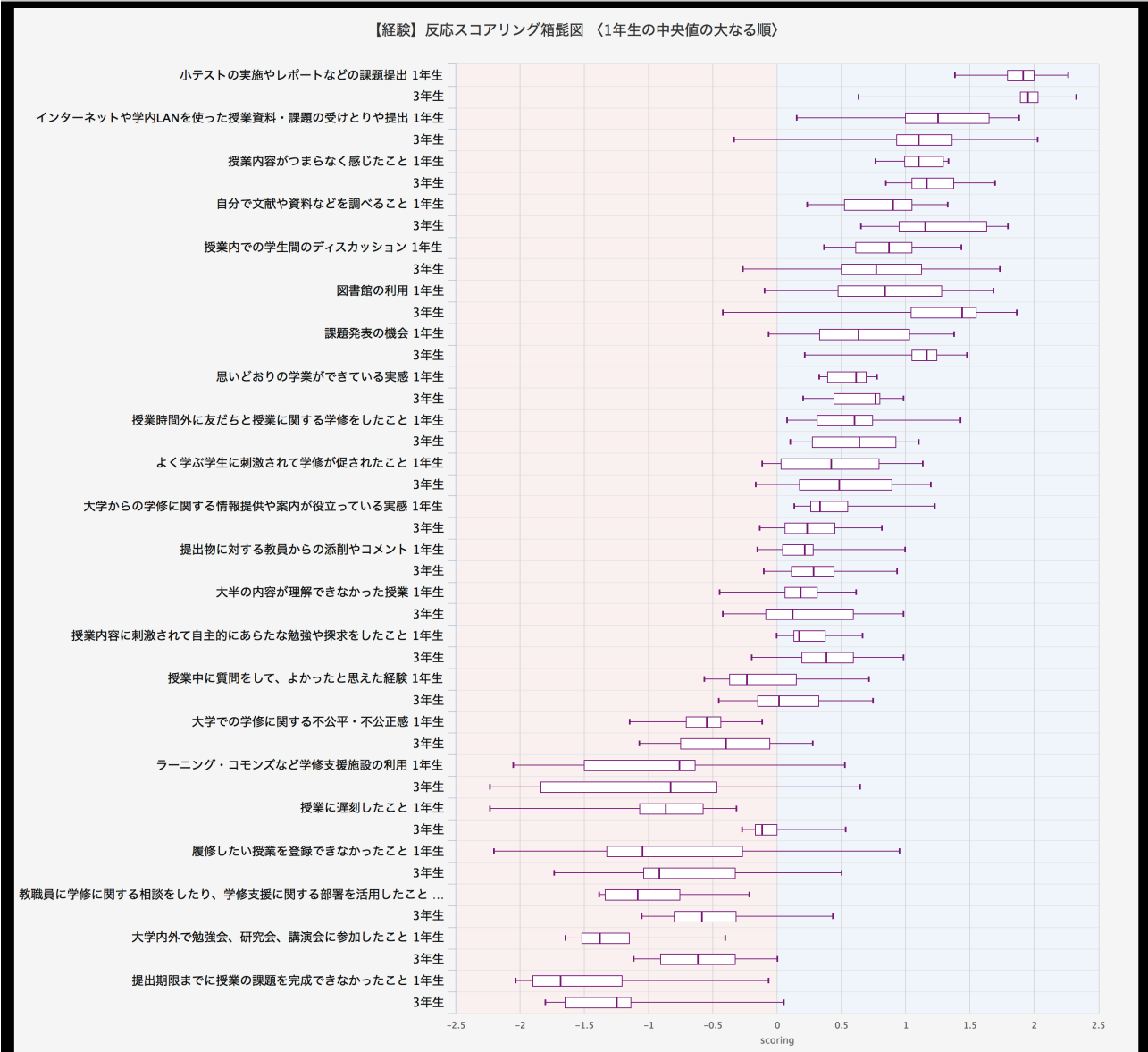
経験 大学の授業や学びに関する経験

ここに示した4つの設問カテゴリーにおける箱ひげ図は回収率25%以上になった11大学の1および3年生の各設問におけるスコアリング・データ*の平均値を並べ、その1年生の中央値が大きかった順に並べたものです。箱内部の縦線が中央値、箱の左右辺が四分位値、箱から伸びたひげの両端が最大値、最小値です。回答の正負の状況がつかめると共に、大学間での平均値のばらつきの程度や特異な大小の値の存在、学年間差異などが一目でわかります

右図に示した経験の多寡の並びは、常識的には1年生より3年生の方が多くなっているはずですが、実際はその当然が顕著に認められる場合もあれば、それに反した傾向が認められる設問もあることがわかります。また、大学間でばらつきの大きな設問とそうでないものもあり、それらが一目瞭然です。

なお、この群では設問によって否定的な方向への回答が良好な回答になるものもあります。ご注意ください。

* スコアリング・データの取り方については教学比較IRコモンズのウェブ・ページを参照ください。



成長 入学時からの成長感

上記の「経験」にも増してひげの全体が肯定域にあることに第一の安堵、5設問を除いて1年に比して3年生で高い評価傾向にあることに第二の安堵、です。それだけに全体の傾性に反して「成長感」で3年生において衰えを示した設問には注目せざるを得ません。その5つすべてが外国語、英語に関する力でした。これは例年認められる結果です。ただし、これらの設問の右ひげがとりわけ長く、最大値において他の大方の大学と異質な大学が存在していることがわかります。

大学界全般に教学の「グローバル化」施策が進められています。が、この結果はその効果が一様でなく、大方の学生の自覚としては施策展開が成果に結びついていないこと、その一方そうした一般的な傾向とは異なる大学もあることがうかがえます。そうした稀な大学がなぜそうであるのか、の検証はそれが公的資金の優先投入の結果との関係といった納税者としての観点も交えることで、広く国民一般の関心事ともなりそうです。



時間

1日あたりの

回答者の約3/4が従事しているアルバイト等の就労時間がとても長いことがわかります。それに比して授業外の授業に関する学修時間と授業に関係しない学習時間の長さはあわせてその約半分という結果です。昨年度の結果に比して3設問とも1割程度時間が短くなりました。調査大学が増えたことによる影響もあるかもしれません。しかし、おそらくそれよりも設問に対する回答方法が、前年は「一日あたり」または「週あたり」どの程度かを応えやすい方で回答する方法をとりましたが、今年度はこの問い方の順を入れ替え、「週あたり」または「一日あたり」としたことで昨年と異なり前者での回答が増しました。検証は未ですが、そのことによる影響があらわれたとみられます。

授業外学修時間



授業に関連しない学習時間



アルバイトなど有給の就労時間



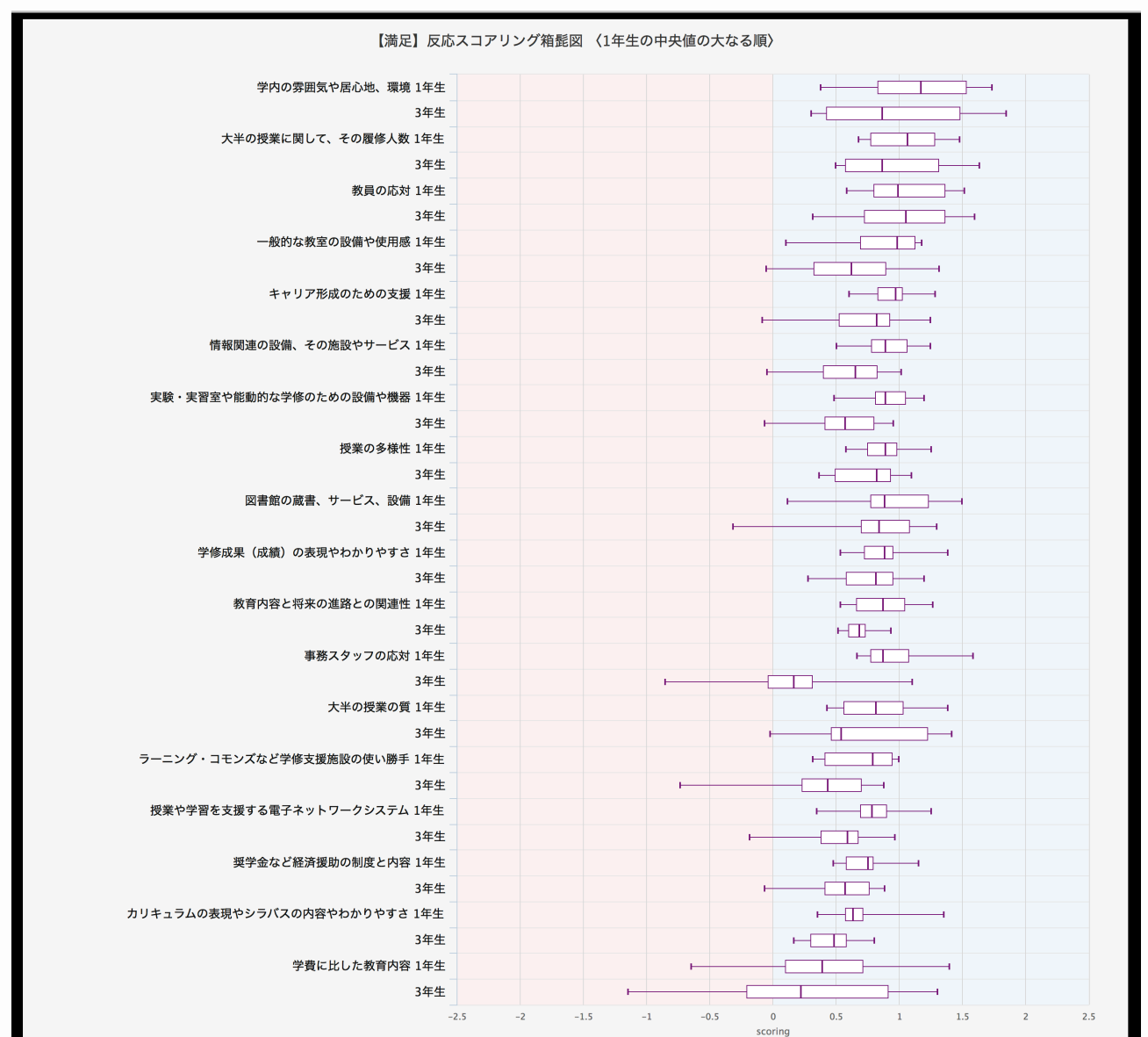
満足

教学に関する満足度

満足感については全項で平均値が肯定域に入りました。例年どおりです。ただ、設問間の相対差異があまりないことから「総じて満足」といった無難な学生生活の日常が映し出された気配もあります。

そうしたなか、一点目立つこととして「事務スタッフの対応」への回答が、3年生で顕著に満足感を落しています。これも例年のことです。SDが盛んにおこなわれるようになったので、まずはこの特異な結果は格好の検討、改善対象になることでしょう、ということも回復して述べることになりました。

また「教育内容と将来の進路との関連性」がその進路に接近した3年生において大学間にほとんど差異なしかたちで1年次よりも満足感を低下、ないしほとんど変化せずとなりました。この種の設問の意図は常識に反し、大学教育のあるべき姿を、満足感が高まらないことをもって肯定的に確認するためにあるともいえます。そのため、この結果は一概には評価しがたいですが、ここにおいて大学間の分散が小さい結果になっていることは興味深いところです。



希望

在学中に望むこと

学年の相違にかかわらず、幅広い知識、教養を身につけること、と専門分野の養いが安定的に最も高い希望としてあげられました。これも例年認められる安定的な結果です。すると、これは学生の願望というよりも、大学そのものが実態的には学生にそういう場としてあることを伝えつづけていることの素直な反映なのかもしれません。

当然のことながら、大方の設問において卒業時までにより長い時間をもっている初年次において、大学での学修に種々の希望をより高く示しています。このことは資格取得、ボランティア活動、アントレプレナーシップの養い、短期留学等の勧奨策は、全学的に発信するのではなく、聞く耳をもつ学年層に向けて重点的に振り向ければ、より功を奏するということが結果は語っています。

